

平成 26 年度事業報告

I. 概況

平成26年の競馬を取り巻く情勢を振り返ると、まず中央競馬ではジャスタウェイ号やジェンティルドンナ号らの海外での活躍やJRA日本中央競馬会創立60周年を記念する様々なイベント等によって盛り上がりを見せ、売得金は対前年比103.7%、3年連続の増加となった。

また、育成業界の動向の指標となる2歳トレーニングセール（JRA日本中央競馬会ブリーズアップセールを除く）をみると、売却率が昨年の58.0%（152/262）に対し74.9%（137/183）と好成績であった北海道トレーニングセールをはじめ、千葉サラブレッドセール及び九州トレーニングセールでも売却総額が大きく増加するなど、2歳市場全体として活況を呈した1年であった。

このような状況のなか、当協会が平成26年度に実施した主な事業の概要は以下のとおりである。

育成技術講習会を昨年と同様に北海道、東北、関東、関西及び九州地区において開催し、軽種馬の育成調教技術の普及啓発を図った。

育成技術表彰事業では、平成18年より表彰対象競走となっている2・3歳の新馬競走、2歳重賞競走（指定地方交流競走を含む）、3歳以上の重賞・オープン競走及び障害重賞競走の499競走のうち、会員育成馬が優勝した267競走（268件）において表彰を実施した。また、競馬場のウイナーズサークルにおいて育成者表彰を行う重賞2歳ステークス競走（札幌・函館・新潟・小倉・デイリー杯・京王杯）では、4競走で会員の育成馬が勝利し、施行場での表彰を実施した。

牧場就業者参入促進事業では、本年もウェブサイトの充実を図るとともに、昨年と同様に「牧場で働こう見学会」、「夏休み牧場で働こう体験会」及び「競走馬の牧場で生きていくBOKUJOBフェア2014」等を開催した。

担い手育成事業としては、公益財団法人競走馬育成調教センター（BTC）の行う育成技術者養成講習会等の入講生に対して修学奨励金を交付したほか、アイルランド競馬学校における技術研修に4名、欧州（英仏）及び豪州における技術研修に各1名、米国における競馬事情視察研修に5名を派遣した。

その他、利子補給事業、競馬関連機材有効活用事業、情報誌発行等を当初の計画どおり実施した。

II. 事業の実施状況

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催

競走馬の育成・調教に関する経営・飼養・衛生・環境管理及び海外における馴致・トレーニング法等の知識や手法について普及啓発を図り、丈夫で強い馬づくりに資するため、育成技術講習会を実施した。平成26年度においても従来どおり、日本中央競馬会（以下「JRA」という。）、公益財団法人軽種馬育成調教センター（以下「BTC」という。）との連携、共催により以下のとおり開催し、多数の会員・関係者の受講参加を得た。また、年々高まる講習会への期待に応えて、北海道地区での育成技術講習会を昨年に続いて実施した。

支 部	開催月日	開催県	講 演 名	講 師	参加人員
九 州	9 月 10 日	鹿児島	草食動物である馬を考える ～繁殖から育成まで～	JRA 宮崎育成牧場 頃末憲治氏	30 名
東 北	9 月 17 日	青 森	草食動物である馬を考える ～繁殖から育成まで～	JRA 宮崎育成牧場 頃末憲治氏	36 名
関 西	10 月 29 日	滋 賀	競走馬の走りと重心	(公社)日本装蹄協会 獣医学博士 青木修氏	161 名
関 東	11 月 6 日	茨 城	競走馬の走りと重心	(公社)日本装蹄協会 獣医学博士 青木修氏	163 名
北海道	11 月 27 日	北海道	今さら聞けない競走馬の トレーニングのあれこれ	JRA 日高育成牧場 羽田哲朗氏	183 名

育成技術講習会の受講者数の推移

平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
234 人	449 人	748 人	490 人	573 人

注) 講習会は平成 23 年までは 4 地区（東北、関東、関西、九州）で開催されていた。平成 24 年から北海道を加え、5 地区で開催された。人数は各地区の受講者合計である。

2) 育成技術表彰事業の実施

会員の育成技術の向上を図り、丈夫で強い馬づくりを目指した競走馬育成の健全な発展に資するため、JRA からの助成金の交付を受け、引き続き育成技術表彰事業を実施した。

表彰対象 499 競走のうち 267 競走（1 着同着の競走があったので表彰件数は 268）で会員の育成馬が優勝し、育成者が表彰された。前年度と比較すると、本年度は 3 歳以上のオープン競走を除く全ての競走において表彰件数が増えた（表参照）。

また、競馬施行場における育成者表彰は重賞 2 歳ステークス競走 6 競走（札幌・函館・新潟・小倉・デイリー杯・京王杯）を対象として行われ、当協会会員 4 名が新潟、札幌、小倉及び京都競馬場のウイナーズサークルで表彰された。

平成26年度 育成技術表彰事業のまとめ（前年度との比較）

対象競走	平成26年度			平成25年度	
	競走数	表彰件数	該当率(%)	表彰件数	該当率(%)
2歳新馬	225	170	75.6	147	65.6
3歳新馬	59	48	81.4	44	72.1
2歳重賞	18	11	61.1	6	37.5
障害重賞	10	2	20.0	0	0.0
他の重賞	112	25	22.3	18	16.1
3歳以上オープン	75	12	16.0	17	23.6
計	499	268	53.7	232	46.9

2. 軽種馬の育成調教に係る人材の確保・養成に関する支援

軽種馬経営の安定につながる将来の基幹的技術者の確保及び高度な知識技術の修得の支援のため、生産育成牧場就業者参入促進事業及び担い手育成事業（修学奨励金交付、生産育成技術者海外派遣研修）を行った。

1) 生産育成牧場就業者参入促進事業

牧場就業促進ウェブサイト(BOKUJOB)、競走馬の牧場で働こう BOKUJOB フェア 2014、牧場で働こう見学会・夏休み牧場で働こう体験会を主要な柱とし、当協会を主体とする競馬関係5団体〔JRA、公益社団法人日本軽種馬協会（JBBA）、BTC、一般社団法人日本競走馬協会、当協会〕で構成する牧場就業促進事務局が運営した。

(1) 「牧場就業促進ウェブサイト（BOKUJOB）」について

就職先としての生産育成牧場の認知、牧場での仕事に関する情報の提供を目的に平成22年度に開局したウェブサイトは、一層認知度が向上し、アクセス数が飛躍的に向上した。

年度	延べアクセス数	延べ利用者数
平成22年度	210,008	50,252
平成23年度	302,502	64,524
平成24年度	485,681	98,160
平成25年度	623,048	123,342
平成26年度	898,214	197,504

※平成22年6月にサイトオープン

(2) 「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB フェア 2014」について

競走馬生産育成牧場等の業務を紹介し、牧場関係者と直接対話できる場としてのフェアは、7月26・27日（土・日）に東京競馬場で開催され、15牧場が説明ブースを設け、275人の参加を得た。

講演等： JBBA・BTC 研修案内 他

研修相談コーナー： JBBA、BTC、公益社団法人日本装削蹄協会、
北海道静内農業高等学校、全国軽種馬青年部連絡協議会

その他： 交流スペース、木馬による模擬体験、競馬博物館見学

(3) 「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB プレフェア 2014」について

関西地区での「BOKUJOB」の周知（認知度の向上）、JRA 施設での競馬開催日におけるイベント実施についての検証も兼ねて開催した。

(JRA 阪神競馬場)

日時： 6月28・29日（土・日） 10時から15時まで

場所： アメニティーホール

来場者： 見学者382名、受付票提出者114名（説明ブース等訪問者）

説明ブース： 5牧場

研修相談コーナー： JBBA、BTC、日本軽種馬青年部連絡協議会

(JRA 中京競馬場)

日時：7月5・6日(土・日) 10時から15時まで

場所：ペガサススタンド3階テラス

来場者：見学者108名、受付票提出者42名(説明ブース等訪問者)

説明ブース：5牧場

研修相談コーナー：JBBA、BTC、日本軽種馬青年部連絡協議会

(4)「牧場で働こう見学会」・「夏休み牧場で働こう体験会」について

①牧場で働こう見学会(関西地区3月8日、関東地区3月15日)

	会 場	中・高校生	保護者等	計
関 西	グリーンウッドパーク・信楽牧場・ノザンファームしがらき	18名	6名	24名
関 東	松風馬事センター・ビッグレットファーム銚田TC	14名	5名	19名

②夏休み牧場で働こう体験会(8月17日～8月22日)

参加者：15名(応募者31名)

場 所：北海道日高地域(拠点：浦河優駿ホースビレッジAERU)

研修先牧場：杵臼牧場、辻牧場、様似堀牧場、まるとみ富岡牧場、林孝輝牧場

協 力：JRA日高育成牧場、BTC、JBBA 静内種馬場、社台スタリオン、AERU、BTC 卒業生

2) 担い手育成事業

(1) 修学奨励金交付事業

BTCが行う育成調教技術者養成講習の平成26年4月入講生2名に対して、また(公社)日本装蹄協会が行う装蹄師認定講習会の平成26年4月入講生1名に対して、修学奨励金を交付した。

(2) 生産育成技術者海外派遣研修事業

軽種馬育成に関する高度な知識・技術の習得を目的として、生産育成技術者海外派遣研修事業を本年度も実施した。平成26年度は、BTCから推薦された3名と会員からの応募者1名の計4名をアイルランドの競馬学校であるRACE(Racing Academy & Centre of Education)に派遣した。

また、3ヶ月以上1年未満の研修については、会員牧場の従業員2名を欧州(英国ニューマーケットのエド・ダンロップ厩舎及び仏国シャンティエのフランシス・H・グラフアード厩舎)と、豪州(アローフィールド牧場及びクールモア・オーストラリア牧場)に、それぞれ約3ヶ月派遣した。3ヶ月未満の短期研修については、7泊9日の行程で米国(競馬場、育成牧場、セリ市場など)に5名を派遣した。

3.2 歳育成馬トレーニングセールスの推進

会員の育成成果を公開する場でもあるトレーニングセールにおいて、より市場取引の活性化を図られるよう支援に努めた。競走馬育成協会関東支部が千葉サラブレッドセール（2歳トレーニングセール）を後援した。

4. 育成調教施設等の整備に対する助成事業

(1) 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設等の整備のために会員が借受けた軽種馬生産育成強化資金の利子負担の軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から助成を受けて、引き続き利子補給事業を実施した。平成26年度は、継続3件について利子補給を実施した。

(2) 畜産環境整備リース事業

家畜排せつ物を適正に管理するための施設・機材を、一般財団法人畜産環境整備機構から借受けた1件（堆肥舎ほか）について、引き続き会員に再貸付を行った。

(3) 競馬関連機材等有効活用事業

JRA等で使用を取りやめた競馬関連の機器及び資材について、再利用を希望する会員に対して斡旋を行った。平成26年度は練習用発馬機（4台）、FRP製馬場柵（2セット）、トラクター（2台）、フォークリフト（1台）及びウニモグ（1台）の斡旋を行った。

(4) 畜産リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会が行う畜産リース事業について会員の申請事務を代行するものであるが、平成26年度については会員からの申込みはなかった。

(5) 馬産地再活性化緊急対策事業（平成21～26年度）

平成26年度は数件の問合せがあったが、実施案件は無かった。なお、本事業は平成26年11月をもって新規受付を終了している。

5. 育成情報誌発行事業の実施について

軽種馬に係わる育成技術等の情報を提供するため、引き続き機関誌「いくせい」52号を発行した。

6. 協会組織の拡充について

(1) 会員数について

新規会員の入会勧誘に努めたところ、正会員として8名が加入した。一方、育成牧場の厳しい経営環境、経営者の高齢化等により6名が脱退した。その結果、平成26年度末における正会員は180名となっている。また、賛助会員については1団体の減となった。

Ⅲ. 総務全般に関する状況

1. 会員の状況

正会員の地区別分布状況並びに正会員及び賛助会員の増減

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
平成 25 年 12 月 31 日	91	10	35	26	16	178	9
増	2	0	4	2	0	8	0
減	3	2	0	1	0	6	1
平成 26 年 12 月 31 日	90	8	39	27	16	180	8

2. 役員に関する事項

役 職	氏 名	常勤・非常勤	備 考
会 長 理 事	武 田 暁 朗	非常勤	
副 会 長 理 事	和 田 隆 一	常 勤	常務理事を兼任
副 会 長 理 事	荻 野 豊	非常勤	
理 事	飯 田 正 剛	非常勤	
理 事	高 橋 司	非常勤	
理 事	諏 訪 豊 蔵	非常勤	
理 事	沖 崎 誠一郎	非常勤	
理 事	中内田 克 二	非常勤	
理 事	柏 木 務	非常勤	
理 事	信 國 卓 史	非常勤	
理 事	織 田 信 美	非常勤	
監 事	安 達 正 奉	非常勤	
監 事	杉 田 繁 治	非常勤	

注 1. 現役員の任期は、平成 27 年度に関する定時総会まで。

3. 職員に関する事項

前期末職員数	増	減	今期末職員数
3 名	1 名	1 名	3 名

4. 会議の開催について

1) 総会の開催

定時総会を次のとおり開催した。

年月日： 平成 26 年 3 月 7 日

場 所： 日本中央競馬会六本木事務所 9 階第 1 会議室

議 題： ①平成 25 年度事業報告及び収支決算について

(平成 25 年 1 月 4 日から 12 月 31 日)

②平成 26 年度会費等の額及び徴収の方法について

③理事の報酬等の額について

2) 理事会の開催

第1回理事会（定例）

年月日：平成26年2月7日

場 所：日本中央競馬会新橋分館8階会議室

議 題：①平成26年度定時総会開催の日程について

②平成26年度定時総会提出議案について

③平成26年度定時総会付議事項について

報告事項：業務執行状況と今後の予定について

第2回理事会（臨時）

年月日：平成26年3月7日

場 所：日本中央競馬会六本木事務所9階第1会議室

議 題：①平成26年度定時総会における委任状の取り扱いについて

②入会の承認（新規正会員）について

第3回理事会（臨時）

年月日：平成26年8月7日

場 所：日本中央競馬会新橋分館8階会議室

議 題：①会計規程の一部改正について

②JRAとの「育成等に関する懇談会」提出議題について

報告事項：業務執行状況と今後の予定について

第4回理事会（定例）

年月日：平成26年12月5日

場 所：日本中央競馬会新橋分館8階会議室

議 題：①平成26年度予算補正について

②平成27年度事業計画、収支予算、資金調達及び設備投資見込みについて

③役員選任規程の制定について

報告事項：業務執行状況と今後の予定について

3) 書面理事会

第1回書面理事会（平成26年5月29日）

入会の承認について（株式会社吉澤ステーブルWEST）

第2回書面理事会（平成26年6月25日）

入会の承認について（有限会社セグチレーシングステーブル、チームプレアデス、MTHケイムズ）

第3回書面理事会（平成26年7月17日）

入会の承認について（株式会社東関東ホースプロジェクト）

第4回書面理事会（平成26年9月10日）

入会の承認について（有限会社ビクトリーホースランンチ名張分場、ビッグレッドファーム鉾田トレーニングセンター）

4) 日本中央競馬会との「平成25年度育成等に関する懇談会」の開催

年月日：平成26年8月8日

場 所：日本中央競馬会六本木事務所9階第2会議室

議 題：①育成技術表彰事業における褒賞金の水準維持

②育成技術者に関する表彰の充実について

③育成調教技術者の確保・養成

④育成牧場の基盤強化対策 ほか

5. 法人検査、監査について

日本中央競馬会による監査：

年月日：平成26年9月3日

場 所：日本中央競馬会新橋分館4階 競走馬育成協会事務所

内 容：平成26年度業務について

コンプライアンス体制について

なお、公認会計士から、会計経理に関する助言・指導を受けた（平成27年1月8日）。

以上